



Photo by Hiroshi Takasugi
今年 ノースポールの新芽

“ノースポール 大根 ほうれん草”

玄海ゆりの樹幼稚園
園長 高杉 洋史



明けましておめでと〜ございませす。

園通信の編集長から原稿の催促をされて昨年年初の巻頭言には何を書いたんだっけと読み返してみると、草の中に生えたノースポールの苗を花壇に移植したら、立派に育った話を書いていました。種は草の中でもしっかり芽生え、肥料の入った花壇では一段と良く育つという話で、園長先生はしっかりと幼稚園の環境を良くしないといけないという自戒を込めたものでした。今回はそのノースポールその後についてご報告します。春を迎え最盛期にはパンジーを隠すほどに育ち、初夏近くまで頑張った花々も高温多湿には耐えきれず、夏の花であるポーチュラカに場所を譲りました。さて、ここからがその続きなのですが、正月に子どもたちのチューリップの鉢植えを見廻ったり、ドリカムタイムで植えた大根やホウレンソウに水やりをして、ついでに花壇を見ると、なんとまあパンジーの花壇が草だらけではありませんか。さすが温暖化、野生の草は強いなあと思いつつ、目を凝らすと全部ノースポールの新芽なのです。

思い出してみると昨年の6月、盛りを過ぎた株を整理して山積みにした場所です。数えきれないほどの種が落ちたのでしよう。新年早々お年玉だあ、ホームセンターで買った一本〇〇円で、何百本わーすごーいと喜んで植えるのは30秒で、よく考えるとそんなに植えるところがないのです。かといって抜いてしまうのも可哀そうだし、もったいないし、といってこのままにしておいたらパンジーが見えなくなるし、思案のしどころです。

棚からぼた餅のノースポールに対して、心を込めて植えたスイトピーの種はちつとも芽を出しません。余った種を遊び半分でマーガレットやチューリップのプランターの角に植えたのは発芽しているのです。なかなか思うようにならないものです。もう一つ迷っていることは、ドリカムタイムで子どもたちと植えた大根とほうれん草のことです。今が食べごろです。

でもドリカムタイムに参加して種をまいてくれた子どもたち全員分には足りないでしょう。秋の台風にやられ、真っ黒い幼虫に結構食べられました。代表して園長先生が食べてもいいのかななんて勝手なことを考えていますが、そんなことをしたら、朝目覚めたら園長先生が真っ黒い虫になっていられるかも。そんな小説がありましたね。そういえば去年のニンジンにはみんなが遠慮して食べなくて長くプランターで育て、結局花が咲きました。ニンジンの花を見たのは初めてでした。世の中は見方によつては結構幸せに満ちているのかもしれない。こんなことを考えながらのお正月でした。今年も子どもたちにも保護者の皆様にもそして幼稚園の先生にもいっぱい成長してもらえらる幼稚園の環境を整えていきます。

